

分析美学の諸問題

Problems of Analytic Aesthetics

- ① 美学(芸術学)の目的
- ② 芸術の定義
- ③ 作品と解釈
- ④ 美の定義
- ⑤ 美の論理学?
- ⑥ 美と意識
- ⑦ 美的と倫理的
- ⑧ 対象化
- ⑨ 情報美学
- ⑩ ジャンル
- ⑪ 進化美学
- ⑫ メタ芸術
- ⑬ 虚構
- ⑭ 観測選択効果(1)
- ⑮ 観測選択効果(2)

第3章 作品と解釈

- 芸術作品は同定できるか(解釈とは何か)
 - 個体か自然種か名目種か **正しい解釈と誤った解釈の線引き問題**
- 未規定箇所の問題 **矛盾律、排中律、二値性原理**
 - 普遍主義、相対主義、懐疑主義(ニヒリズム)
 - 充填法(外挿原理)……現実原理、共通信念原理、意図原理
 - 忖度原理(作者→観賞者)、逆忖度原理(観賞者→作者)
 - ジャンル原理、美的原理
- 作品と作品外
 - 本質的性質と偶然的性質
 - 内在主義と外在主義 **普遍主義、文脈主義、構成主義**
- 作品の定義(非知覚的要因の重視の度合い)
 - 形式主義、現象主義、
機能主義、意図主義、受容主義、制度主義、歴史主義 → 全体論
 - タイトル 作品の境界の同定 ジャンル同定
- テキスト、解釈、作品の対応関係
 - テキストと作品は……一対一対応? 一対多対応?
 - テキストと作品は……部分全体関係? タイプ・トークン関係?
 - 作品と解釈は……一対一対応? 一対多対応?
 - 作品と解釈は……部分全体関係? タイプ・トークン関係?

一対多対応説を支持する論証(テキストと作品)

論証A

セルバンテスのテキスト(A, 1605年)とピエール・メナールのテキスト(B, 1934年)は……

- ① AとBは同じ表記から成る
 - ② テキストは表記によって定義される
 - ③ AとBは同一のテキストである(①②より)
 - ④ Aは通俗的な文体で書かれており、Bは文体に意図的なアナクロニズムを採用している(AとBは相容れない現象的性質に対応する)
 - ⑤ 同一のテキストが相容れない現象的性質に対応している(③④より)
 - ⑥ 同一のものが相容れない現象的性質を持つことはない
 - ⑦ 同一のテキストが複数のものに対応している(⑤⑥より)
 - ⑧ 同一のテキストが複数のものに対応したら、そのものは作品以外にない
- ∴ ⑨ 一つのテキストが複数の芸術作品に対応することがある

①→ 同綴異字がありうるので、別の表記と見なせる(テキストと作品の一対一対応を確保)

②→ テキストは生産の過程によって定義されうる(テキストと作品の一対一対応を確保)
表記とは。文字の大きさや字体などは?

③→ 同一とは限らない

④→ 「いつ書かれたと見なすか」の条件を付ければ、相容れる現象的性質に変換できる(テキストと作品の一対一対応を確保)

⑤→ 相容れないとは限らない

⑥→ 矛盾的对象が可能かもしれない(テキストと作品の一対一対応を確保)

⑦→ 複数に対応するとは限らない

⑧→ 履歴、時空的場所、字体など、他にも候補はある

⑨→ ごく特殊な場合に限られるかもしれない(一般化できないかもしれない)

「テキスト」→「作品」「作品」→「解釈」「提示」と読み替えると……

Rxy 解釈xは観賞者yにとって正しい

弱い普遍主義

$$\exists x \forall y Rxy$$

全員にとって正しい解釈がある

強い普遍主義

$$\exists !x \forall y Rxy$$

全員にとって正しい解釈がひとつだけある

$$\exists x \forall y (Rxy \wedge \forall z (Rzy \supset x=z))$$

消極的普遍主義

$$\forall y \exists !x Rxy$$

各々にとって正しい解釈がひとつだけある

$$\forall y \exists x (Rxy \wedge \forall z (Rzy \supset x=z))$$

弱い相対主義

$$\sim \exists !x \forall y Rxy$$

個人間では異なる解釈が正しくありうる

強い相対主義

$$\sim \exists x \forall y Rxy$$

個人間では同じ解釈が正しくありえない

積極的相対主義

$$\sim \forall y \exists !x Rxy$$

個人の中でも複数の解釈が正しくありうる

穏健な懐疑主義

$$\forall x \exists y \sim Rxy$$

いかなる解釈も、誰かにとっては**正しくない**

規約主義

$$\forall x \exists y Rxy$$

いかなる解釈も、誰かにとっては正しい

弱いニヒリズム

$$\exists y \forall x Rxy$$

すべての解釈を正しいとする人がいてよい

強いニヒリズム

$$\exists y \forall x \sim Rxy$$

どの解釈をも**正しいとしない**人がいてよい

アナキズム

$$\forall x \forall y Rxy$$

誰にとってもすべての解釈が正しい

Fx 解釈xは私にとって正しい

「**正しくないとする**」と「**正しいとしない**」

は同じことか？

普遍主義(实在論)

$$\forall p \sim (p \wedge \sim p)$$

$$\forall p (p \vee \sim p)$$

$$\sim \exists p (p \wedge \sim p)$$

$$\sim \exists p \sim (p \vee \sim p)$$

トリビアルな普遍主義 (F.....虚構Fの中で)

$$\forall p \sim (Fp \wedge \sim Fp)$$

$$\forall p (Fp \vee \sim Fp)$$

$$\sim \exists p (Fp \wedge \sim Fp)$$

$$\sim \exists p \sim (Fp \vee \sim Fp)$$

穏健な普遍主義

$$\forall p \sim F((p \wedge \sim p))$$

$$\forall p \sim F(\sim (p \vee \sim p))$$

$$\sim \exists p F((p \wedge \sim p))$$

$$\sim \exists p F(\sim (p \vee \sim p))$$

議論含みの普遍主義

$$\sim F(\sim \forall p \sim (p \wedge \sim p))$$

$$\sim F(\sim \forall p (p \vee \sim p))$$

$$\sim F(\exists p (p \wedge \sim p))$$

$$\sim F(\exists p \sim (p \vee \sim p))$$

疑わしい普遍主義

$$F(\forall p \sim (p \wedge \sim p))$$

$$F(\forall p (p \vee \sim p))$$

$$F(\sim \exists p (p \wedge \sim p))$$

$$F(\sim \exists p \sim (p \vee \sim p))$$

過激な普遍主義

$$\forall p \sim (Fp \wedge F\sim p)$$

$$\forall p (Fp \vee F\sim p)$$

$$\sim \exists p (Fp \wedge F\sim p)$$

$$\sim \exists p \sim (Fp \vee F\sim p)$$

内在性質と外在性質

どこまでが本質的性質でどこからが偶然的性質か

≥ …… 「より正しい解釈である」という関係

意図の誤謬 Intentional fallacy・感情の誤謬 Affective fallacy (ニュークリティシズム)

私秘的な意図によって作品を解釈することはできず、作品によって意図を推測できるのみ！

外在性質を排除(現象主義的普遍主義)

$\exists x \forall y (x \geq y)$

タイトルは？ 宗教的象徴は？ 作者の身元は？ 制作年代は？ 媒体は？
モデルやロケーションに関する情報は？ 影響関係は？ 値段は？ 盗難歴は？

↓↓

作品の起源に固定する文脈主義 contextualism

起源以外の外在性質を排除(意図主義的普遍主義)

$\exists x \forall y (x \geq y)$

cf. 作品を自然的対象として underlying traits の探究

(cf. 環境美学における「科学的知識」重視の認知主義 cognitivism)

↓↓

受容環境ごとに正しい解釈を固定する構成主義 constructivism

受容環境以外の外在性質を排除(相対主義)

$\forall y \exists x (x \geq y)$

↓↓

相対主義的普遍主義

可能な受容環境をすべて条件として包含(普遍主義)

$\exists z \forall y \exists x (z \geq x \geq y)$

相対主義的普遍主義の可能性 ← 文脈主義、構成主義

作品Wに対し、

S1において妥当なのは 解釈K1

S2において妥当なのは 解釈K2

S3において妥当なのは 解釈K3

:

:

:

Snにおいて妥当なのは 解釈Kn

:

:

$\exists x \exists y (Kx \supset \sim Ky)$

∴ すべてのSで妥当する解釈はない

∴ 普遍主義は偽である

(唯一の整合的解釈は存在しない)

ただし、

$K1 \vee K2 \vee \dots \vee Kn \vee \dots \quad \exists x (Kx)$

というトリビアルな普遍主義は維持可能

(選言的普遍主義 disjunctive universalism)

解釈を、条件付き解釈へと再解釈すると――

(cf. 永久文、演繹定理、宿命論、四次元主義)

すべてのSにおいて $K(K1 \mid S1) \quad P1$

すべてのSにおいて $K(K2 \mid S2) \quad P2$

すべてのSにおいて $K(K3 \mid S3) \quad P3$

:

:

:

すべてのSにおいて $K(Kn \mid Sn) \quad Pn$

:

:

$\sim \exists x \exists y (Px \supset \sim Py) \quad \forall x \forall y (Px \wedge Py)$

∴ すべてのSで妥当する解釈はある

∴ 普遍主義は真である

(唯一の整合的解釈は存在する)

$P1 \wedge P2 \wedge \dots \wedge Pn \wedge \dots \quad \forall x (Px)$

ただし、ニヒリズムやアナキズムを防ぐには

$\forall x (Px \supset \Box Px) \quad \forall x (\Diamond Px \supset Px)$

テキスト、作品、解釈の論理関係を、
テキスト > 作品 > 提示の関係として捉えなおすと……

$\alpha \supset \beta$

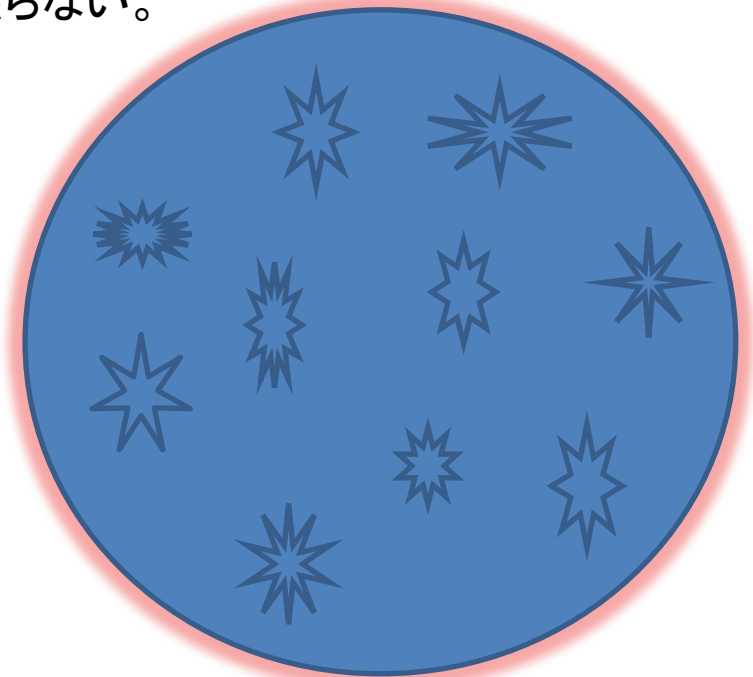
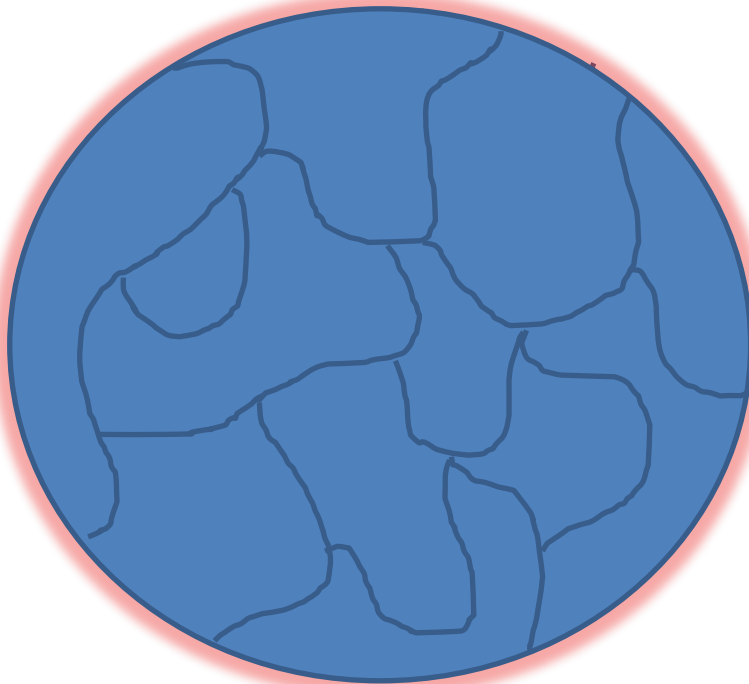
$$\forall x((\beta \ni x) \rightarrow (\alpha \ni x))$$

α は実際に β より大きい集まり
(諸 β の量的総合)
同カテゴリの述語が当てはまる。

$\alpha \ni \beta$

$$\forall x((x \supset \alpha) \rightarrow (x \ni \beta))$$

α は β より大きい集まりとは限らない。
(各 β からの論理的構成物)
同カテゴリの述語が当てはまるとは限らない。



テキスト＞作品＞提示

包含関係か例示関係(タイプ・トークン関係)か

赤い布の広がりH	⊃	赤い布の5センチ四方の見本S
赤い布	⇒	赤い布の5センチ四方の見本S
赤	⇒	赤い布の5センチ四方の見本S
布	⇒	赤い布の5センチ四方の見本S
赤い布の正方形の見本S	⊃	個々の分子
ソクラテス	⊃	ソクラテスの右手親指
指	⇒	ソクラテスの右手親指
哲学者	⇒	ソクラテス
哲学者	⊃	数理哲学者
源氏物語	⊃	宇治十帖
源氏物語	⇒	岩波文庫版『源氏物語』の一冊G

作品

提示

関係

	時空的対象	時空的対象 (cf. センステータ)	⊃	可能
×	時空的対象	時空的対象	⇒	不可能(あるいは要再構成)
×	時空的対象	理念的対象 (cf. センシビリア)	⊃	不可能(あるいは要再構成)
×	時空的対象	理念的対象	⇒	不可能(あるいは要再構成)
△	理念的対象	時空的対象	⊃	不可能(あるいは要再構成)
	理念的対象	時空的対象	⇒	可能
	理念的対象	理念的対象	⊃	可能
	理念的対象	理念的対象	⇒	可能

※ テキストと作品の関係にも同様の構造が当てはまる(だろうか?)

※ 「提示」を「解釈」に置き換えると、理念的対象に限定される(だろうか?)

テキスト > 作品 > 提示の Mereology

組み合わせにより、形式的に8つの可能性

	テキスト ⊃ 作品	作品 ⊃ 提示	テキスト ⊃ 提示
× ₁	テキスト ⊃ 作品	作品 ⊃ 提示	テキスト ⊃ 提示
× ₂	テキスト ⊃ 作品	作品 ⊃ 提示	テキスト ⊃ 提示
	テキスト ⊃ 作品	作品 ⊃ 提示	テキスト ⊃ 提示
× ₃	テキスト ⊃ 作品	作品 ⊃ 提示	テキスト ⊃ 提示
	テキスト ⊃ 作品	作品 ⊃ 提示	テキスト ⊃ 提示
× ₄	テキスト ⊃ 作品	作品 ⊃ 提示	テキスト ⊃ 提示
	テキスト ⊃ 作品	作品 ⊃ 提示	テキスト ⊃ 提示

- 1 部分集合の部分集合は部分集合であるため
- 2 部分集合の要素は要素であるため
- 3 要素の部分集合は部分集合でありえないため
- 4 要素の要素は部分集合ではありえないため

テキストは時空的対象であると仮定すると、
 作品、提示も時空的対象となる。
 提示を理念的対象と仮定すると、
 作品、テキストも理念的対象となる。
 これに上の論理を組み合わせると、

テキストが時空的対象の場合、
 テキスト ⊃ 作品 作品 ⊃ 提示 テキスト ⊃ 提示

のみが整合的となるが……
 (理念的対応物を適宜あてがうことにより調整可能)

∃x(x ⊃ x) を認めると、Russell's Paradox 発生

$$R \text{ 集合} \dots\dots R = \{x \mid \sim(x \supset x)\}$$

$$R \supset x \equiv \sim(x \supset x)$$

$$R \supset R ? \quad \text{or} \quad \sim(R \supset R) ?$$

提示の姿は断片的、不完全(数日かけて読む小説など)等のため、作品のトークン(事例・見本)と言い難いものもある ……→ ⊃ 関係の排除?

提示の姿は飽和しすぎて、作品の未決の部分も補填していることがある ……→ ⊃ 関係の排除?

提示の「美しさ」と作品の「美しさ」は同カテゴリーの述語である ……→ ⊃ 関係の支持?

しかし作品は**字義通りに「美しく」ありうるか?**

ex. ソクラテス(具体的な一個人)は疑り深い、
 哲学者(抽象的な類)は疑り深くありえない。
 (哲学者が疑り深いのではなく、哲学者の事例が疑り深いだけ)

$$Fx \equiv F \supset x$$

帰納

$$S \supset a \quad S \supset b \quad S \supset c \dots \quad \therefore \forall x (P \supset x \rightarrow S \supset x)$$

$$S a \quad S b \quad S c \dots \quad \therefore \forall x (P x \rightarrow S x)$$

演繹

$$\forall x (P \supset x \rightarrow S \supset x) \quad P \supset s \quad \therefore S \supset s$$

$$\forall x (P x \rightarrow S x) \quad P s \quad \therefore S s$$

芸術作品が「◎◎である」とはどういうことか？

表出expressionの理論にとっての重要問題

「ジョン・アダムズの『シェイカー・ループス』は緊迫感に満ちている」というとき、
作品『シェイカー・ループス』(S)と性質「緊迫感に満ちている」(K)との関係は？

1. Sの適正な提示(事例)は緊迫感に満ちている $\forall x(S \ni x \rightarrow K \ni x)$ $\forall x(Sx \rightarrow Kx)$
2. Sの適正な提示(部分)は緊迫感に満ちている $\forall x(S \supset x \rightarrow K \ni x)$ $\forall x(S \supset x \rightarrow Kx)$

1. の場合、「緊迫感に満ちている」は、『シェイカー・ループス』に比喩的に適用される。
2. の場合、「緊迫感に満ちている」は、『シェイカー・ループス』に字義的に適用される。

∴ $S \ni S$ は Russell's Paradox を呼び込むため、1. では、 $K \ni S$ は成り立たない。
 $S \supset S$ は常に真なので、2. では、 $\forall x(S \supset x \rightarrow K \ni x)$ と $S \supset S$ から、 $K \ni S$ が導ける。

「ハンス・オッテの『響きの書』は美しい」 \equiv Hの適正な提示は適格な観賞者を陶醉させる
と仮定すると、

1. $\forall x(H \ni x \rightarrow T \ni x)$ $\forall x(Hx \rightarrow Tx)$ ならば、各提示は比喩的にのみ美しくありうる。
2. $\forall x(H \supset x \rightarrow T \ni x)$ $\forall x(T \supset x \rightarrow Kx)$ ならば、各提示は字義通りに美しくありうる。

∴ $H \supset H$ は常に真なので、2. では、H自身が字義通りに美しい提示となる。
H以外の提示xも、 $x \supset y$ なる提示がありうるなら、xは字義通りに美しくありうる。
また、 $H \supset H$ から $T \ni H$ つまり、Hは字義通りに 適格な観賞者を陶醉させる。

作品と構成要素・主題の関係への適用

『ドラえもん』 \supset ドラえもん ?
『ドラえもん』 \ni ドラえもん ?
Andy Warhol の Brillo Box \supset Brilloの外箱 ?
Brillo Box \ni Brilloの外箱 ?

作品と作者・観賞者の感情の関係への適用

創作時の「提示」と作品との関係

一対多対応説を確認して 存在論的一元論を模索する論証（作品と提示）

論証B

- ① 『ピアノ・フェイズ』は、スティーブ・ライヒによる作曲（1967年）より前には存在しなかった
 - ② 『ピアノ・フェイズ』は、作曲された後は、演奏がなされない間も存在している
 - ③ 特定の時・場所における『ピアノ・フェイズ』の演奏は、演奏者による特定の行為がなされている時間にのみ存在する時空的対象である
 - ④ 『ピアノ・フェイズ』は、どの特定の演奏とも異なる存在であり、かつ、すべての演奏の合併とも異なる存在である（②③より）
 - ⑤ 『ピアノ・フェイズ』は、すべての演奏を要素とする集合とは異なる存在である（①より）
 - ⑥ 『ピアノ・フェイズ』と各演奏（具体化）との関係は、全体・部分（ \subset ）でもなく、集合・要素（ \in ）でもない（④⑤より）つまり、作品『ピアノ・フェイズ』は、実在の演奏によっては定義できない
- ∴ ⑦ 『ピアノ・フェイズ』と同一視できる唯一の候補は、『ピアノ・フェイズ』の演奏を可能にする実在物、つまり楽譜である

- ① → 抽象的構造として存在していたのではないか 存在はしたが例示されなかっただけ
- ② → 「存在」よりも「例示（具体化）」を論ずるべきではないか
- ③ → 無時間的な演奏という、抽象的な存在様式があるのではないか
- ⑤ → ①を「例示されなかった」と読めば問題なし
- ⑥ → 時空的対象と抽象的対象との間には、 \exists 以外の関係が成り立ちうるのでは（唯名論に対する実在論 cf. ①）
- ⑦ → 楽譜のない作品の場合はどうか

絵画の場合……

- 作曲 …… → 制作
演奏 …… → 展示・観賞
楽譜 …… → 物体としての絵画

単数芸術 singular artwork と
複数芸術 multiple artwork の区別への反証？
(Autographic vs. Allographic)

「音楽作品」の本性についてのさまざまな修正主義

1. 音楽作品は抽象的対象(理念的対象)である

A 現実になされる演奏の集合である

——→ 作曲以前にも当該作品は存在した 多くの作品が空集合ゆえ同一となる

B 可能的演奏の集合である

——→ C, E, Fへ

C 抽象的構造である

——→ 芸術作品は、創造されることはありえない

2. 音楽作品は具体的対象(時空的対象・物理的対象)である

D 現実になされる演奏の合併である

——→ 『ピアノ・フェイズ』が「今この瞬間も存在している」というのは、推測でしかない

E 楽譜である

——→ 音楽というジャンルは、実は視覚芸術・空間芸術である

さもないと、楽譜の定義的特徴は記法であり、感覚的対象ではないゆえに、Cへ

歴史的・個別的な楽譜は音楽作品にとって偶然的 定義的特徴は有限個の特徴で規定される構造(名目種) (ただし、偽造の可能性を考慮に入れると自然種となる)

F 伝達行為の準備状態である

——→ Eへ

「絵画作品」の本性についてのさまざまな修正主義

1. 絵画作品は抽象的対象(理念的対象)である

A 現実になされる提示の集合である

——→ 制作以前にも当該作品は存在した

B 可能的提示の集合である

——→ C, E, Fへ

C 抽象的構造である

——→ 芸術作品は、創造されることはありえない

2. 絵画作品は具体的対象(時空的対象・物理的対象)である

D 現実になされる提示の合併である

——→ 『夜警』が「今この瞬間も存在している」というのは、推測でしかない

◎E あの物体である

——→ ◎物体の定義的特徴は記法で定義不能 贋作可能性に開かれている

歴史的物体の因果線が本質的 現物を手がかりに諸性質の発見を要する(自然種)

(分子レベルのコピー機ができたらどうだろうか cf. 演奏のCD、映像のDVD、写真・・・
無限の特徴を有限の特徴へ制限する再定義 ——→ Cへ)

F 伝達行為の準備状態である

——→ オリジナルが破壊されても、正確なコピーによって作品は保たれうる? Eへ

文献

W. K. Wimsatt & Monroe Beardsley *The Verbal Icon: Studies in the Meaning of Poetry* (University of Kentucky Press, 1954).

Stephen Davies *The Philosophy of Art* (Wiley-Blackwell, 2006)

Nelson Goodman *Languages of Art* (Bobbs-Merrill, 1968. 2nd ed. Hackett, 1976)

ネルソン・グッドマン、C. Z. エルギン『記号主義』みすず書房

Robert Stecker *Interpretation and Construction: Art, Speech, and the Law* (Wiley-Blackwell, 2003)

セオドア・サイダー『四次元主義の哲学』春秋社